

9	け	同	に	北	が	画		に	1		も	な	全	方	大	党		問	
1	取	じ	じ	区	が	を	花	つ	'	こ	が	国	に	衆	「		し		公
年	ら	会	ま	を	将	私	川	い	最	の	ら	3	寄	か	「		ま		明
の	れ	場	せ	つ	来	の	区	て	初	政	政	0	り	ら	教		す		党
鈴	る	で	ま	く	に	手	長	、	に	治	を	0	添	生	育		。		を
木	新	、	ま	っ	夢	で	は	お	、	姿	進	い	ま	ま	の				代
東	年	区	し	っ	と	着	1	聞	、	勢	め	な	れ	れ	党				表
京	挨	長	た	て	希	実	月	き	所	は	て	が	た	と	「				し
都	拶	選	。	い	望	に	5	し	信	1	ま	ら	政	し	環				て
知	を	4		き	を	推	日	ま	表	月	い	党	と	境					花
事	聞	期		た	持	し	、	す	明	、	り	し	し	の					川
の	い	目		「	ち	進	新		と	平	ま	た	て	党					区
4	て	へ		と	、	め	年		平	成	し	。	、	「					長
選	い	の		4	幸	る	挨		成	2	た	こ	社	と					に
出	て	出		期	せ	こ	拶		7	年	。	と	会	し					大
馬	い	馬		目	を	と	で		度	予	あ	は	的	し					き
時	て	表		へ	実	こ	、		算	算	り	あ	に	。					く
の	私	明		の	感	と	区		案	。	ま	り	弱	こ					5
ゴ	は	と		決	で	、	民				せ	。	い	れ					点
タ	、	受		意	き						ん			、					質
	1			を	る														
	9																		

ろ	「	づ	2	含	か	平	ん	上	期	し	時	会	判	激	知	花	は	鈴	ゴ
や	地	く	一	め	、	成	。	げ	目	た	代	党	は	務	事	川	4	木	タ
氏	方	り	(お	後	2	あ	だ	に	こ	に	と	あ	を	区	期	俊	劇	
は	消	ー	1	答	世	7	ら	け	何	と	つ	共	あ	こ	長	1	一	を	
そ	滅	に	〜	え	に	年	た	で	を	だ	く	産	り	な	と	6	さ	思	
の	「	つ	王	下	何	度	め	は	残	と	っ	党	ま	し	年	ん	は	い	
著	の	い	子	さ	を	予	て	肝	さ	言	た	か	し	続	に	は	6	出	
書	著	て	駅	い	残	算	こ	心	れ	わ	ら	推	け	け	及	8	し		
で	者		周	。	す	案	こ	な	れ	れ	推	ま	ま	も	勇	て			
「			・		の	に	こ	部	て	い	薦	し	。	退	時	い			
人	増		十		か	つ	こ	分	ま	す	さ	た		は	都	ま			
口	田		条		、	い	こ	が	？	。	れ	美	高	8	知	し			
減	寛		駅		花	て	こ	伝	所	花	濃	齡	、	4	事	。			
少	也		周		川	、	こ	わ	信	川	部	多	選	歳	に	な			
が	一		辺		区	何	こ	っ	表	区	革	の	な	で	り	、			
進	ま		の		長	を	こ	て	明	長	新	片	く	し	在	職			
む	す		の		の	す	こ	来	の	は	都	鱗		た					
な	だ		「		決	る	こ	ま	読	4	政	も		。					
か	ひ		ま		意	の	こ	せ	み			な							
			ち		も		の					く							

で避けられないのが「コンパクトシティ」の
 考え方だろう。ただし、効率的、効果的サ
 ビスを提供するため「守りのコンパクトシ
 ティ」だけでなく、新たな価値を生み出す
 「攻めのコンパクトシティ」を目指すことが
 求められる」と述べえています。北区におい
 て、王子駅東側に移転を進めている新庁舎を
 中心とするコンパクトシティの形成に向け
 て、王子駅周辺の交通結節点としての機能の
 再構築が必要であります。特に、医療施設と
 つながるデマンド交通を含む交通網の再整備
 と王子駅前に北区のイメージアップにつなが
 る新たな駅前広場の創設やJR王子駅の改築
 も一体的に進めることが必要だと考えます
 また、王子駅周辺は、江戸時代からの桜の名
 所である飛鳥山公園の桜と崖線の緑、石神井
 川の水辺環境に恵まれ豊かな自然環境を有し
 ています。これらの自然環境も取り入れた新
 たな価値を生み出す「攻めのコンパクトシ
 ティ」の創設を目指してもらいたいものです。

て	市	エ	続	ま	よ	け	も	よ	付	は	を	連	除	町	十	お	次	の	王
い	街	ク	立	た	う	東	の	り	近	「	出	続	く	会	条	聞	に	あ	子
ま	地	ト	体	、	な	京	で	、	の	「	席	立	議	長	地	き	、	る	駅
す	再	と	交	十	動	都	す	早	連	北	議	体	員	の	区	し	十	区	周
が	開	都	差	条	き	、	。こ	期	続	区	員	交	全	連	の	ま	条	の	辺
、	発	市	事	駅	が	北	こ	に	立	、	一	差	員	名	積	ち	積	の	の
こ	事	計	業	周	出	区	こ	事	体	J	致	事	提	の	極	づ	極	ま	ま
の	業	画	と	辺	て	、	こ	業	交	R	で	業	出	陳	的	く	的	ち	ち
三	の	決	木	の	き	あ	こ	化	差	東	決	の	議	情	な	り	な	づ	づ
次	の	定	密	ま	た	ら	こ	さ	事	日	定	早	を	を	見	く	見	く	く
元	ス	さ	地	ち	の	た	こ	れ	業	本	し	期	受	お	解	り	解	り	り
方	ム	れ	域	づ	か	め	の	る	が	一	ま	実	け	聞	を	に	を	に	に
程	ズ	た	不	く	、	か	よ	適	株	し	現	、	き	お	つ	お	つ	つ	
式	な	十	燃	り	お	、	、	う	切	）	ま	に	共	聞	聞	い	聞	い	い
を	進	条	化	で	答	こ	の	「	な	で	。決	関	産	き	き	、	き	き	、
解	展	駅	十	、	え	決	決	強	構	議	す	る	党	し	し	、	し	し	未
く	が	西	年	こ	下	議	議	く	造	る	決	る	区	ま	ま	、	ま	ま	来
よ	望	口	プ	の	さ	を	を	求	形	決	議	議	議	、	、	、	、	、	と
う	ま	地	ロ	連	い	受	受	め	式	「	で	「	団	、	、	、	、	、	夢
な	れ	区	ジ		。			た	に	」		」	を	、	、	、	、	、	

●	観	光	振	興	の	取	組	み	を	通	じ	て	、	地	域	振	興	部	ま	す	。	策	を	打	ち	出	す	べ	き	で	す	。	区	の	見	解	を	伺	い	強	力	に	推	進	し	、	速	や	か	に	実	効	性	の	あ	る	施	と	る	こ	と	な	く	シ	テ	ィ	ー	プ	ロ	モ	ー	シ	ヨ	ン	を	源	・	英	知	を	結	集	し	て	他	の	自	治	体	に	後	れ	を	じ	、	非	常	に	残	念	な	こ	と	で	す	。	あ	ら	ゆ	る	資	区	と	し	て	大	き	な	損	失	を	お	か	し	て	い	る	と	感	う	で	、	シ	テ	ィ	ー	プ	ロ	モ	ー	シ	ヨ	ン	を	進	め	る	北	こ	と	は	、	多	く	の	区	民	に	知	ら	れ	て	い	な	い	よ	の	撮	影	現	場	に	な	っ	て	い	ま	す	。	意	外	と	そ	の	区	内	の	各	所	が	、	映	画	や	ド	ラ	マ	、	C	M	な	ど	街	」	を	は	じ	め	飛	鳥	山	公	園	や	中	央	公	園	な	ど	●	最	近	、	昭	和	の	雰	囲	気	が	漂	う	「	梶	原	商	店	で	す	。	ま	ち	・	住	み	た	い	ま	ち	北	区	」	を	広	く	発	信	す	べ	き	ル	ム	・	コ	ミ	ツ	シ	ヨ	ン	を	立	ち	上	げ	、	「	行	き	た	い	2	ー	(2)	観	光	協	会	を	設	立	す	る	今	こ	そ	！	フ	ィ	丁	寧	に	解	い	て	い	く	の	か	区	の	見	解	を	伺	い	ま	す	。	困	難	が	と	も	な	う	「	ま	ち	づ	く	り	」	を	ど	の	よ	う	に
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

線 が 計 画 さ れ て お り 、 赤 羽 西 エ リ ア の 起 点	防 災 用 と し て 特 定 整 備 路 線 都 道 補 助 8 6 号	一 タ 一 設 置 に つ い て 伺 い ま す。	● は じ め に 、 赤 羽 西 ・ 赤 羽 北 地 域 へ の エ レ ベ	地 下 通 路 等 へ の エ レ ベ 一 タ 一 設 置 に つ い て	2 一 （ 3 ） 赤 羽 台 ・ 赤 羽 西 ・ 赤 羽 北 ・ 尾 久 駅	す。 。	ッ シ ヨ ン の 設 立 も 含 め 区 の 見 解 を 伺 い ま	づ く り に も 貢 献 し ま す。 フ ィ ル ム ・ コ ミ	を 揺 さ ぶ り 心 を 豊 か に し 新 た な 地 域 の 絆	的 効 果 だ け で な く 、 広 く 人 々 の 心 の 琴 線	す 効 果 は 、 地 域 ブ ラ ン ド 力 の 向 上 や 経 済	フ ィ ル ム ・ コ ミ ッ シ ヨ ン の 地 元 に も た ら	発 信 す る べ き で だ と 考 え ま す。 。	ム ・ コ ミ ッ シ ヨ ン を 立 ち 上 げ 北 区 を 広 く	の 設 立 を 目 指 し て い る 今 こ そ 、 フ ィ ル	目 指 し て い る と 聞 い て い ま す。 観 光 協 会	れ て い ま す。 。将 来 的 に 観 光 協 会 の 設 立 を	人 口 の 増 加 に 結 び つ け て い く 努 力 が な さ	で は 北 区 の 地 域 活 力 の 向 上 を 図 り 、 定 住
---	---	--	--	---	--	---------	--	--	--	--	--	--	---	--	---	--	---	--	--

と	し	て	は	、	現	在	業	務	用	食	料	品	の	ス	ー	パ	ー	マ
目	に	出	る	と	い	う	計	画	で	す	。							
こ	の	ト	ン	ネ	ル	付	近	の	高	台	に	お	住	ま	い	の	住	民
の	方	々	か	ら	も	、	多	く	の	賛	同	が	得	ら	れ	る	よ	う
に	、	ま	た	、	こ	の	道	路	建	設	で	メ	リ	ッ	ト	が	得	ら
れ	る	よ	う	に	す	べ	き	だ	と	考	え	ま	す	。	そ	こ	で	、
こ	の	道	路	建	設	に	乗	じ	て	ト	ン	ネ	ル	付	近	に	エ	レ
ベ	ー	タ	ー	を	設	置	し	て	、	崖	地	の	高	低	差	解	消	を
図	れ	る	よ	う	東	京	都	に	対	し	て	ト	ン	ネ	ル	工	事	と
同	時	に	エ	レ	ベ	ー	タ	ー	設	置	を	求	め	て	は	い	か	が
で	し	よ	う	か	。													
次	に	、	赤	羽	北	3	丁	目	の	旧	北	園	小	学	校	跡	地	
に	、	高	齢	者	専	用	住	宅	と	特	別	養	護	老	人	ホ	ー	
ム	、	そ	し	て	保	育	園	が	つ	く	ら	れ	ま	す	。	昨	年	、
北	区	で	建	設	す	る	高	齢	者	専	用	住	宅	の	設	計	図	が
示	さ	れ	ま	し	た	。	こ	の	図	面	を	見	る	と	、	崖	地	側
に	は	遊	歩	道	が	配	置	さ	れ	て	お	り	ま	す	。	こ	の	遊
歩	道	の	真	下	に	は	長	年	使	わ	れ	て	い	な	い	、	通	称
子	供	プ	ー	ル	が	放	置	さ	れ	て	お	り	ま	す	。	そ	こ	

し、	路と	向上	開通	い	3月	いて	●	き	区	レ	届	長	つ	●	花	し	を	転	で
、	と言	が	に	尾	月1		尾	な	民	ベ	け	年	い	赤	川	て	設	車	、
地	われ	期	よ	久	4日		久	見	ニ	て	に		羽	区	置	置	置	こ	
元	、	待	り	駅	、		駅	解	ー	タ	ま	わ		台	長	し	場	き	の
の	上	出	、	の	上		地	を	ズ	い	た		ト	の	こ	を	場	子	
高	中	来	尾	利	野		下	伺	の	の	り	。北		ン	決	の	整	を	供
齡	里	る	久	便	東		通	い	実	設	ま	区		ネ	意	遊	備	プ	プ
者	2	今	駅	性	京		路	ま	現	置	し	議		ル	を	歩	し	ー	ー
や	丁	、	周	が	ラ		へ	す	を	を	た	会		協	お	道	、	ル	を
女	目	寂	辺	格	イ		の	。	求	求	わ	に		へ	伺	に	こ	を	撤
性	と	しい	の	段	ン		エ		め	め	け	お		の	い	繋	こ	を	去
か	昭	薄	ポ	に	開		レ		ま	て	で	い		エ	し	げ	に	し	し
ら	和	暗	テン	ア	通		ベ		ま	来	す	ま		レ	ま	る	エ	て	て
忌	町	い	ンシ	ッ	に		ー		す	た	が	す		ベ	す	よ	レ	車	車
み	を	地	ヤル	プ	と		タ		が	わ	区	。		ー	。	う	ベ	寄	寄
嫌	分	下	の	し	も		ー		、	け	の			タ	か	ー	せ	せ	や
わ	断	通	の	ま	な		設		区	で	前			ー		に	や	や	自
れ				す			置		の	す	向			設		配	自	自	自
て				。			に		前	が				置		置			

格的に普及させ、今の倍以上の700の自治	を運行するいわゆる「デマンド型交通」を本	って乗り合い・予約型の小型バスやタクシー	た。その一つとして、地方自治体が主体とな	ービスの展開を後押しすることが示されまし	をめぐりに地域の実情を踏まえた多様な交通サ	決定された基本計画の中で、2020年度	定しました。	未来図を示す「交通政策基本計画」を閣議決	リンピックの開催を見据えた日本の交通網の	2月13日、政府は東京オリンピック・パラ	について研究し発言してまいりました。	デマンド交通網がもたらす地域経済の活性化	事業などを昨年視察し、その導入の可能性と	しているデマンド交通や鳥取県伯耆町のバス	いても、長野県安曇野市の社会協議会が運営	まいりました。また、デマンド型交通網につ	らコミュニティバスの新路線拡充を求めて	ら、また子育て世代の環境を整備する視点か	め、高齢者の生活・活動を応援する視点か
----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	-----------------------	---------------------	--------	----------------------	----------------------	----------------------	--------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	----------------------	---------------------

ン	を	ま	V	主	患	増	い	年		V	4			め	積	北	ん	北	た	体
券	受	す	の	な	す	加	ま	層	子	の	一			ま	極	区	。	区	。	に
の	け	。	持	原	る	し	す	で	宮	頸	（			す	的	に		に		導
送	ら	北	続	因	人	、	が	は	頸	が	1			が	に	多		お		入
付	れ	区	感	は	が	3	、	こ	の	ん	）			、	デ	数	い			す
に	る	で	染	ヒ	多	0	逆	の	2	の	ヒ			区	マ	の	て			る
よ	こ	は	に	ト	く	代	に	2	0	0	ト			の	ン	タ	こ			目
り	と	2	よ	パ	な	か	っ	0	年	年	パ			英	ド	ク	の			標
区	に	年	っ	ピ	っ	ら	て	歳	間	は	ピ			断	型	シ	時			が
民	な	に	て	ロ	い	4	い	か	で	、	ロ			を	を	ー	期			併
の	っ	一	お	ー	ま	0	ま	ら	順	5	ー			求	含	事	を			せ
関	て	度	こ	マ	す	代	す	2	調	0	マ			め	む	業	逃			て
心	お	、	る	ウ	。	に	。	9	に	歳	ウ			ま	交	所	す			閣
は	り	子	と	イ	子	子	子	歳	宮	で	イ			。	通	が	こ			議
年	、	宮	い	ル	頸	頸	頸	は	頸	急	ル				網	あ	と			決
々	無	頸	わ	ス	が	が	急	激	上	に	（				の	り	は			定
高	料	が	れ	（	ん	ん	激	に	の	中	H				整	ま	あ			さ
ま	ク	ん	て	H	に	に	に	き	高	高	P				備	ま	り			れ
っ	ー	検	い	P	罹	罹	罹	て							を	し	ま			ま
て	ポ	査	い		の										求	せ				し

海 道 大 学 大 学 院 の 浅 香 正 博 特 任 教 授 は 、 胃 内	年 で 約 1 1 0 万 件 の 除 菌 が 行 わ れ ま し た 。 北	る よ う に な り ま し た 。 そ の 結 果 、 適 用 後 約 1	菌 の 除 菌 が 慢 性 胃 炎 の 段 階 か ら 保 険 適 用 で き	年 2 月 胃 内 視 鏡 検 査 の 実 施 を 要 件 に 、 ピ ロ リ	公 明 党 の 国 会 議 員 の 強 力 な 推 進 で 2 0 1 3	4 一 （ 2 ） ・ （ 3 ）	す 。 区 の 見 解 を 伺 い ま	入 す る べ き と 考 え ま す が 、 区 の 見 解 を 伺 い ま	る ヒ ト パ ピ ロ ー マ ウ イ ル ス 検 査 を 区 と し て 導	女 性 の 健 康 を 守 り 、 子 宮 頸 が ん 撲 滅 に つ な が	妊 娠 ・ 出 産 も 可 能 と な り ま す 。 。	階 で 発 見 し 治 療 す れ ば 、 が ん の 進 行 を 防 ぎ 、	高 め る こ と が 出 来 ま す 。 「 前 が ん 病 変 」 の 段	査 の 精 度 が 向 上 し 「 前 が ん 病 変 」 の 発 見 率 を	ー マ ウ イ ル ス 検 査 を 組 み 合 わ せ る こ と で 、 検	イ ル ス に 感 染 し て い る か を 調 べ る ヒ ト パ ピ ロ	っ て い ま す が 、 こ れ に 加 え ヒ ト パ ピ ロ ー マ ウ	現 在 行 っ て い る 子 宮 頸 が ん 検 査 は 細 胞 診 を 行	い る と こ ろ で あ り ま す 。 。
--	--	--	--	--	---	---	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--

行くべきものと思いません。	宣言し、区民の健康を守るために取り組んで	と、北区において「胃がん撲滅宣言都市」を	り、将来の胃がん撲滅も可能になります。	ば、胃がんの早期発見・早期治療が可能にな	公費助成でピロリ菌検査を受ける人が増えれ	感染が胃がんの最大危険因子であり、今回の	リスクが分かる画期的な検診です。ピロリ菌	スク検診とは、あなたが将来、胃がんになる	ようなコメントを頂いています。胃がんリ	北区の「胃がんリスク検診」について、次の	先頃、北区医師会会長の野本晴夫先生から	強く要望してきたところですよ。	通じピロリ菌検査について、その実施を区に	明党北区議員団は、過去の本会議質問などを	胃がん患者数の減少が期待されています。公	ています。今後、ピロリ菌除菌の保険適用で	万件超の早期発見に結びついていると推察し	かることから、ピロリ菌除菌の保険適用が1	視鏡検査100件当たり1件の胃がんが見つ
---------------	----------------------	----------------------	---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	----------------------	---------------------	-----------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------

に	負	み	検	こ	幅	り	が	●	己	は	ス	除	歳	円	の	が	い	胃	
あ	担	で	診	ろ	は	組	一	そ	負	区	ク	さ	以	の	方	あ	る	が	胃
げ	金	6	の	で	は	ん	番	こ	担	内	検	れ	上	が	あ	町	ん	が	胃
た	は	4	対	す	広	で	一	こ	は	在	診	ま	の	り	田	リ	が	ん	胃
町	1	歳	象	が	く	い	を	こ	1	住	と	す	5	、	市	ス	ん	リ	胃
市	0	ま	年	、	自	る	掲	こ	0	で	い	。また	歳	職	は	ク	リ	ス	胃
な	0	で	齢	北	己	北	げ	こ	0	4	い	。また	刻	場	、	検	ス	ク	胃
ど	0	に	の	区	負	区	健	こ	円	0	1	。また	の	等	検	診	検	ク	胃
と	円	な	範	が	担	で	康	こ	と	歳	回	。また	の	で	診	で	診	検	胃
比	と	っ	囲	実	は	す	寿	こ	な	か	の	。また	年	機	先	進	に	つ	胃
べ	な	て	は	施	3	か	命	こ	っ	ら	の	。また	齢	会	進	的	い	て	胃
見	っ	い	は	す	9	ら	を	こ	て	、	検	。また	の	の	な	取	伺	い	胃
劣	ま	ま	か	る	歳	5	延	こ	い	診	費	。また	方	い	り	組	ま	す	胃
り	す	。また	歳	胃	を	歳	ば	こ	ま	用	。た	。また	は	。た	み	を	し	。胃	胃
が	が	また	から	がん	求	検	す	こ	す	負	だ	。た	は	だ	し	を	て	。胃	胃
し	先	自	5	リ	め	査	こ	と	。胃	担	し	。た	8	。た	し	を	。胃	。胃	胃
ま	己	己	歳	ス	と	対	に	に	。胃	が	。た	。た	0	。た	。胃	。胃	。胃	。胃	胃
			刻	ク		象	取	取		免			0						
						年				リ			0						
						齢				リ			0						

育	き	せ	の	重	●	が	ま	検	お	ロ	の	診	治	策	●	を	下	齢	す
」	、	て	の	要	また	、	す	診	よ	リ	の	に	療	の	が	を	さ	と	。北
の	残	い	必	性	学	区	が	率	び	菌	視	力	、	4	ん	要	い	自	区
小	念	た	要	や	校	の	、	の	啓	の	点	を	本	対	対	望	己	の	リ
中	で	だ	性	生	教	見	区	向	発	関	か	注	柱	策	策	し	負	ス	ス
学	あ	き	に	命	育	解	に	上	す	係	ら	ぐ	だ	で	で	ま	担	ク	検
校	り	ま	つ	の	で	を	普	に	る	に	今	こ	、	と	最	、	金	の	診
で	ま	し	い	尊	、	伺	及	つ	こ	後	後	と	そ	言	も	区	の	根	の
の	す	た	て	厳	が	い	と	な	と	、	、	の	の	わ	効	の	拠	根	制
実	。そ	が	も	を	ん	ま	啓	が	が	正	区	う	う	れ	率	の	に	拠	度
施	こ	、	過	伝	対	す	発	り	胃	し	民	ち	特	て	の	い	つ	に	設
に	で	消	去	え	策	。	の	重	が	区	に	予	に	い	い	回	い	て	計
つ	再	極	、	る	の		実	要	ん	対	し	防	予	ま	答	議	、	、	対
い	度	な	本	「	予		施	な	へ	予	て	、	防	、	え	で	提	、	象
、	「	回	会	が	防		を	事	の	防	胃	、	と	が		案	、	お	年
区	が	答	提	ん	・		求	だ	予	と	が		検	ん		さ	答	、	年
の	ん	を	案	教	検		め	と	防	ピ			診	対			え	、	年
見	教	頂	さ	育	診		ま	考	と				、						

海	り	認	の	で	認	状	な	有	さ	あ	を	の	以	5	の	平	5			解
外	、	知	認	す	知	態	い	病	さ	り	ど	支	上	歳	人	成	一			を
の	あ	症	知	。こ	症	の	、	率	き	う	援	の	の	以	口	2	(伺
調	わ	予	症	れ	予	人	認	は	ご	防	を	支	の	の	は	7)			い
査	せ	備	の	ら	備	を	症	全	ろ	ぐ	得	支	の	の	推	年	認			ま
で	る	群	人	を	群	を	でも	国	、	か	ら	得	支	の	定	1	知			す
は	と	の	は	も	と	軽	な	平	厚	が	れ	得	支	推	推	月	症			。
、	2	人	推	と	に	度	い	均	生	北	ない	ら	支	1	定	1	対			
認	4	は	定	に	推	認	、	1	労	区	い	推	支	4	定	日	策			
知	'	推	1	定	算	症	有	5	働	の	、	算	支	2	計	現	に			
症	0	定	2	算	す	障	病	%	省	さ	正	与	支	0	る	在	つ			
予	4	1	'	と	と	害	率	で	か	し	認	と	支	6	推	の	い			
備	7	'	1	定	算	と	は	す	ら	せ	知	、	支	7	計	北	て			
群	人	1	8	算	と	言	平	。	発	ま	症	い	支	人	算	区	い			
の	に	6	2	す	い	い	均	ま	表	った	の	、	支	で	と	の	て			
5	な	5	人	と	わ	い	1	た	さ	課	社	、	支	、	の	6	い			
%	り	人	、	、	わ	ゆる	3	た	れ	題	会	6	支	5	うち	5	て			
か	ま	と	同	北			%	認	た	でも	的	歳	支	歳	7	以上				
ら	す	な	じ	区				知	認	も	孤	以	支							
1	。		く					症	知		立		支							

包	●								●					●	下	ラ	先	題	告	0
括	また	ます	場	に	育	0	を	北	く	認	っ	年	認	6	ン	月	で	も	%	
ケ	各地	。お	を	対	成	0	置	区	の	知	て	間	知	点	ー	、	あ	の		
ア	域	答	提	し	は	0	いた	では	で	症	い	1	患	質	が	認	り	人		
シ	あ	え	供	て	、	0	た認	は、	し	者	ま	万	者	問	発	知	、	が		
ス	ん	下	し	ス	認	以	知症	認	よ	を	す	を	の	し	表	症	、	一		
テ	し	さい	て	キ	知	上	サ	知症	う	地	。北	突	の	ま	さ	対	年			
ム	ん	い	きた	ル	症	の	ポ	の	か	域	区	破	排	し	策	以	内			
の	セン	。	か、	ア	サ	方	ー	の	。	で	に	す	徊	。	の	に	認			
構	ター		検	ッ	ポ	が	タ	見	区	ど	お	る	状		国	に	知			
築	ー		証	プ	ー	受	ー	解	の	の	い	な	に		家	認	を			
を	で		の	を	養	講	養	を	見	よ	て	深	よ		戦	知	発			
進	今		視	ど	成	し	成	伺	守	う	排	刻	行		略	症	す			
め	後		点	う	講	ま	講	い	っ	に	徊	な	方		「	す	る			
る	、		か	促	座	し	座	ま	て	状	症	問	不		新	と	の			
上	地		ら	し	を	た	を	。	い	の	状	題	明		オ	報	の			
で	域		伺	、	1	。	1		。	あ	の	に	者		レ	の	報			
受			い	活	2		2			る	あ	な	が		ン	の	報			
講				躍						い	あ	な			ジ	の	報			
				の						い	る				プ	の	報			

開	●						●																		
催	予	伺	ま	症	い	な	ま	区	一	る	施	高	や	症	い	す	責	し	者						
に	算	い	す	サ	理	の	た	の	育	全	設	齢	し	サ	ま	。	務	て	を						
つ	案	ま	が	ポ	解	地	高	取	成	職	で	社	認	ポ	、	だ	頂	ど							
い	に	ま	、	ー	と	域	齢	り	講	員	窓	会	知	ー	。	と	く	の							
て	盛	。	大	育	知	で	化	組	座	並	口	に	症	の		か	、	よ							
で	り		規	成	識	、	が	み	の	び	、	対	の	の		区	う	に							
。	込		模	が	を	住	一	を	受	に	ロ	応	お	研		と	ま	ま							
。	ま		団	極	身	民	段	お	講	、	ビ	し	客	修		。	が	と							
6	れ		地	め	に	に	と	答	を	認	ー	よう	様	を		、	区	め							
ヶ	た		等	て	付	認	進	え	義	知	な	と	の	受		の	組	組							
所	「		の	大	け	知	ん	下	務	症	ど	し	接	けた		見	を	化							
の	認		区	事	て	症	で	さ	付	サ	で	て	客	た		解	示	し							
高	知		の	だ	い	に	い	い	け	ポ	接	い	取	従		を	す	地							
齢	カ		取	と	た	対	る	。	る	ー	遇	ま	り	業		候	域								
者	フ		り	考	だ	す	大		べ	タ	に	す	組	員		い	で	活							
あ	エ		組	え	る	る	規		き	。	た	。	み	を		ま	が	躍							
ん	ー		み	考	正	正	模		で		ず	。	、	増											
し	の		を	え	し	し	団		す		さ	。	超	知											

確 に し 、 導 入 し て い く こ と を 検 討 し な け れ	で 、 有 償 ボ ラ ン テ ィ ア の 考 え 方 や 役 割 を 明	● 地 域 包 括 ケ ア シ ス テ ム の 構 築 を 進 め る 中	だ と 考 え ま す 。 区 の 見 解 を 伺 い ま す 。	へ の ス キ ル ア ッ プ を 促 す 仕 組 み を 作 る べ き	用 者 へ の ア ン ケ ー ト を 実 施 し 、 サ ポ ー タ ー	● 高 齢 者 い き い き サ ポ ー タ ー 制 度 の 検 証 と 利	は 喫 緊 の 課 題 で す 。 以 下 3 点 質 問 し ま す 。	し て き ま す 。 北 区 に お い て は 介 護 予 防 の 普 及	の 生 活 支 援 の 需 要 が 、 間 違 え な く 今 後 も 増 加	0 0 0 世 帯 の 北 区 に お い て 、 高 齢 者 へ の 軽 度	単 身 高 齢 者 3 万 人 超 、 高 齢 者 の み 世 帯 4 万 4	「 お 元 氣 ポ イ ン ト 」 創 設 に つ い て	5 一 （ 2 ） 高 齢 者 い き い き サ ポ ー タ ー 制 度 と	願 い し ま す 。 区 の 決 意 を お 聞 き し ま す 。	で は な く 、 積 極 的 姿 勢 を 示 さ れ る こ と を お	実 施 す る と い う “ お ざ な り ” の 消 極 的 姿 勢	ら れ る の で し よ う か 。 国 が 打 ち 出 し た か ら	ま す が 、 6 ヶ 所 月 1 回 の 量 で 二 ー ズ に 答 え	ん セ ン タ ー で 月 1 回 開 催 だ と お 聞 き し て い
---	---	---	---	---	---	--	---	--	--	--	--	---	--	--	---	---	---	---	---

校	し	い	ど	が	習	討	生	ら	●	ば	る	が	ま	す	介	1	の	特	地
で	あ	て	を	障	や	さ	徒	、	そ	な	人	必	す	。そ	護	0	の	に	域
の	え	学	つ	が	介	れ	を	中	こ	り	材	要	が	。そ	分	0	世	重	包
福	る	び	う	い	護	て	対	長	こ	り	の	で	が	。そ	野	万	代	要	括
社	こ	、	じ	者	施	は	象	期	こ	ま	育	。政	、第	。そ	で	人	が	な	ケ
教	と	子	生	や	設	如	に	的	こ	せ	成	府	一	。そ	の	介	課	ア	
育	が	ど	命	高	の	何	し	視	こ	ん	や	あ	に	。そ	人	護	題	シ	
に	期	も	の	齡	訪	で	た	点	こ	。こ	確	げ	介	。そ	手	人	は	ス	
つ	待	達	尊	者	問	す	「	に	こ	こ	保	、福	護	。そ	不	材	介	テ	
い	で	が	厳	と	な	か	福	立	こ	こ	を	社	員	。そ	足	が	護	ム	
て	き	互	や	の	ど	？	祉	っ	こ	こ	全	の	の	。そ	は	不	人	を	
区	ま	い	人	触	を	？	教	て	こ	こ	力	さ	ら	。そ	深	足	材	構	
の	す	に	間	れ	通	？	育	小	こ	こ	で	ら	な	。そ	刻	す	の	築	
見	。小	人	の	合	じ	？	「	中	こ	こ	取	る	る	。そ	化	と	確	し	
解	学	間	生	い	、	？	」	学	こ	こ	り	処	る	。そ	す	言	保	て	
を	校	の	き	や	子	？	福	の	こ	こ	組	遇	い	。そ	わ	れ	で	い	
お	中	成	方	体	ど	？	祉	観	こ	こ	ま	改	。そ	れ	。こ	は	す	く	
聞	学	長	に	験	も	？	教	点	こ	こ	な	善	。そ	。こ	。こ	。こ	。こ	上	
き	学	つ	つ	な	達	？	育	か	こ	こ	け	。こ	。こ	。こ	。こ	。こ	。こ	。こ	で

ん	ク	を	の	シ	す	る	て	タル	日	え	難	の	寿	や	係	ピ	内	●	し
。	の	孤	単	ヤ	。	「	は	ル	頃	合	所	東	命	犯	や	タ	閣		ま
こ	の	立	身	ル	ま	絆	、	の	か	い	等	日	も	罪	結	ル	府		す
こ	の	化	高	・	た	づ	ソ	の	ら	、	で	本	長	び	（	の			。
に	の	さ	齡	ワ	、	く	ー	の	養	助	略	大	い	つ	地	の			
地	の	せ	者	丨	新	り	シ	の	わ	け	奪	震	と	き	域	の			
域	の	な	が	カ	年	「	ヤ	の	れ	合	や	災	分	）	・	の			
包	の	いた	生	丨	度	に	ル	の	て	い	暴	で	析	が	社	と			
括	の	ため	活	を	か	着	・	の	い	、	動	、	さ	豊	会	「			
ケ	の	に	す	導	ら	手	キ	ソ	ま	苦	が	極	れ	か	に	ソ			
ア	の	、	る	入	コ	し	ャ	ー	す	難	起	限	て	な	お	ー			
シ	の	互	北	し	ミ	た	ピ	シ	。	に	こ	状	い	地	け	シ			
ス	の	助	区	ま	ユ	と	タ	ヤ	北	耐	こ	態	ま	域	る	ヤ			
テ	の	の	に	す	ニ	ころ	ル	ル	区	え	ら	に	す	ほ	人	ル			
ム	の	ネ	お	が	テ	で	の	・	に	た	ず	お	。	ど	々	・			
の	構	ッ	い	、	あ	力	キ	お	姿	、	か	4	、	の	信				
の	築	ト	て	3	り	を	ャ	い	は	互	れ	年	失	頼	関				
構	を	ワ	人	万	ま	深	ピ	常	、	い	た	前	業	閉					
築	を		々	人		め	ピ			に	た		率						
を										支	た								
											避								

Ｐ	４	任	ト	そ	ラ	ラ	割	た	に	そ	合	さ	バ	そ	ア	５			
ー	歳	は	入	の	シ	シ	負	た	配	の	に	い	レ	の	ン	ー			
と	以	ム	り	チ	を	に	担	７	っ	チ	な	ー	ン	ア	ケ	（			
わ	上	リ	で	ラ	見	、	に	３	て	ラ	っ	と	タ	ン	ー	４			
ざ	の	ー	、	シ	せ	、	な	歳	い	は	て	な	イ	ケ	ト	）			
わ	外	と	大	の	て	、	る	の	た	、	い	っ	ン	ト	商				
ざ	来	書	き	内	く	、	っ	女	そ	商	る	て	行	ラ	店				
赤	窓	か	く	容	レ	、	て	性	う	店	も	お	動	シ	街				
字	口	れ	「	は	ま	！	！	か	で	街	の	り	・	は	で				
で	の	、	こ	、	し	！	！	ら	す	で	で	、	あ	は	出				
２	支	そ	レ	キ	た	本	！	。	す	。	し	宛	な	２	配				
割	払	の	以	ャ	、	当	私	そ	！	の	た	先	た	０	布				
負	は	下	上	ラ	、	で	の	の	！	医	ち	は	の	１	さ				
担	２	段	の	ク	私	す	療	療	こ	費	ラ	あ	声	５	れ				
を	割	に	医	タ	と	か	費	が	の	が	シ	を	を	年	た				
強	負	「	療	ー	私	！	今	今	を	今	を	聞	聞	虹	医				
調	担	７	の	の	に	こ	度	度	も	度	ら	か	か	の	療				
し	へ	０	自	イ	そ	の	２	２	ら	２	っ	せ	せ	の	機				
て	Ｕ	５	己	ラ	の	チ			っ			て	て		関				
書		７	責	ス								だ	だ		の				

